

平成 28 年 3 月 18 日
人文学類 FD 委員会

平成 25/26 年度人文学類授業アンケート報告書

0. はじめに

人文学類では、今後もより良い授業を実現するため、受講者が 20 名以上の講義系科目について授業アンケートを行っている。

授業アンケートは、各学期の授業の最終回または試験時に講義担当教員が用紙を配布・回収し、学務係を通じて集計されている。アンケートは無記名であり、出席率、予習・復習、シラバスの参考度、授業のスピード、参考資料の適切度、授業水準の期待達成度、授業への興味、知識・視野拡大、について 4 件法または 5 件法で回答する他に、自由記述欄が設けられている。回答の度数分布と平均値、自由記述欄の内容、および設問間の相関係数については、担当教員にフィードバックされている。

以下に、第一章では平成 25 年度、第二章では平成 26 年度の授業アンケートについて報告する。報告では、それぞれの調査項目について、ポイント帯ごとの授業数の分布を示し、簡単にまとめる。4 件法での回答の計算については、5 件法相当の数値に変換して記述した。第三章では全体の総括的な議論をする。

1. 平成 25 年度人文学類授業アンケートの結果と分析

平成 25 年度は、演習科目や実習科目を含めた全 412 の授業の内の 94 授業が該当した。この内の 83 授業で実施され、実施率は 88.3%であった。

(1) 出席率

平均 3.95 (最高 5.00, 最低 2.73)

4 件法回答。5 件法換算では、皆出席=5/1~2 回欠席=3.67/3~4 回欠席=2.33/5 回以上欠席=1 ポイントの分布になる。

5.00~4.00 ポイント	39 科目
3.99~3 ポイント	43 科目
2.99~2.00 ポイント	1 科目
1.99~1.00 ポイント	0 科目

全授業の平均が 3.95 ポイントであるが、これは 1~2 回欠席の 3.67 を大幅に上回るポイントである。全員皆出席の授業も多く、最も出席率が低い授業でも 2.73 ポイントあり、欠席は 3~4 回を下回っている。

(2) 予習・復習

平均 1.70 ポイント (最高 3.75, 最低 1.00)

5 件法回答. 3 時間以上 = 5 / 2 時間以上 3 時間未満 : 4 / 1 時間以上 2 時間未満 : 3 / 0.5 時間以上 1 時間未満 : 2 / 0.5 時間未満 : 1 ポイント

5.00~4.00 ポイント (2 時間以上)	0 科目
3.99~3.00 ポイント (2 時間未満~1 時間以上)	3 科目
2.99~2.00 ポイント (1 時間未満~0.5 時間以上)	17 科目
1.99~1.00 ポイント (0.5 時間未満)	63 科目

平均値が 1.70 ポイントであり, 1 回の講義の予習・復習に費やされる時間が 30 分未満である.

(3) シラバスの参考度

平均 3.70 (最高 4.35, 最低 2.86)

5 件法回答. 大変参考になった = 5 / ある程度参考になった = 4 / あまり参考にならなかった = 3 / 全く参考にならなかった = 2 / 見ていない : 1 ポイント

5.00~4.00 ポイント (大変参考になった~ある程度参考になった)	18 科目
3.99~3 ポイント (ある程度参考になった~あまり参考にならなかった)	64 科目
2.99~2.00 ポイント (あまり参考にならなかった~まったく参考にならなかった)	1 科目
1.99~1.00 ポイント (まったく参考にならなかった~見ていない)	0 科目

全体の平均は 3.70 ポイントである。「ある程度参考になった~あまり参考にならなかった」の評価の「ある程度参考になった」寄りの評価である。実際に, 64 科目 (73%) の科目がこの評価群に属していた。

(4) 授業の理解度

平均 3.54 (最高 4.49, 最低 2.33)

4 件法で回答. 5 件法換算では, よく理解できた = 5 / ほぼ理解できた = 3.67 / あまり理解できなかった = 2.33 / 全く理解できなかった = 1 ポイントの分布になる。

5.00~4.00 ポイント	8 科目
3.99~3 ポイント	68 科目
2.99~2.00 ポイント	7 科目
1.99~1.00 ポイント	0 科目

授業の理解度については, 全体の平均は 3.54 ポイントであり, 「ほぼ理解できた」が 3.67 ポイント, 「あまり理解できなかった」が 2.33 ポイントであるから, 平均値は, 「ほぼ理解できた」よりも少し落ちることになる。8 科目 (10%) が 5-4 ポイントの良い評価を受けていて, 5-3 ポイントの間に, 83 科目中の 75 科目 (90%) が入っている。

(5) 授業のスピード

平均 3.14 (最高 4.25, 最低 2.78)

5 件法回答. 速すぎた=5/やや速すぎた=4/適切であった=3/やや遅すぎた=2/遅すぎた=1 ポイント

5.00~4.00 ポイント (早すぎた~やや早すぎた)	1 科目
3.99~3 ポイント (やや早すぎた~適切)	71 科目
2.99~2.00 ポイント (適切~やや遅すぎた)	11 科目
1.99~1.00 ポイント (やや遅すぎた~遅すぎた)	0 科目

平均が 3.14 なので, 授業のスピードについては適切という評価が多い. ポイント帯ごとの授業の分布をみると, 少し早目であるという評価を受けている授業が多いようである.

(6) 参考資料の適切度

平均 3.93 (最高 5.00, 最低 3.12)

4 件法で回答. 5 件法換算では, 十分適切=5/ほぼ適切=3.67/あまり適切でなかった=2.33/全く適切でなかった=1 ポイントの分布になる.

5.00~4.00 ポイント	45 科目
3.99~3.00 ポイント	38 科目
2.99~2.00 ポイント	0 科目
1.99~1.00 ポイント	0 科目

参考資料の適切度については全体の平均が 3.93 ポイントであり, ほぼ適切の評価が 3.67 ポイントであるから, 基本的に当学類の授業における参考資料は適切であると評価されている. 他方, 最も評価の低かった授業は 3.12 ポイントであり, 「ほぼ適切」と「あまり適切でない」の中間ぐらいの評価のものもあったということになる.

(7) 授業水準の期待達成度

平均 3.52 (最高 4.50, 最低 2.88)

5 件法回答. 期待以上に高かった=5/やや高かった=4/期待通り=3/やや低かった=2/低すぎた=1 ポイント

5.00~4.00 ポイント	9 科目
3.99~3.00 ポイント	72 科目
2.99~2.00 ポイント	2 科目
1.99~1.00 ポイント	0 科目

授業水準の期待達成度は全授業の平均で 3.52 ポイントであった。「期待以上に高かった」科目が 9 科目あり、アンケート対象となった 83 科目の 1 割を越えている。また、81 科目が期待通りを上回る評価を受けていて、ほとんどの科目（97.5%）で学生の期待に十分応える水準の授業を提供している。

(8) 授業への興味

平均 3.84（最高 4.67，最低 2.78）

4 件法回答。5 件法換算では、非常に持てた=5/まあ持てた=3.67/あまり持てなかった=2.33/全く持てなかった=1 ポイントの分布になる。

5.00～4.00 ポイント	36 科目
3.99～3.00 ポイント	46 科目
2.99～2.00 ポイント	1 科目
1.99～1.00 ポイント	0 科目

授業への興味の評価は全授業の平均で 3.95 ポイントで、当学類の講義は、学生の興味を引くものを提供しているといえる。さらに、4 ポイント以上の高い評価を得ているものが、83 科目中 36（約 43%）ある。

(9) 知識・視野拡大

平均 4.06（最高 5.00，最低 3.52）

4 件法回答。5 件法換算では、非常にそう思う=5/まあそう思う=3.67/あまり思わない=2.33/全く思わない=1 ポイントの分布になる。

5.00～4.00 ポイント	53 科目
3.99～3.00 ポイント	30 科目
2.99～2.00 ポイント	0 科目
1.99～1.00 ポイント	0 科目

知識・視野拡大については、平均で 4.06 と非常に高い評価を得ている。ポイント帯への分布においても、5.00～4.00 ポイントに 53 科目（64%）が位置し、残りの 30 科目（36%）が 3.99～3.00 ポイント帯に位置していて、それ以下の評価はない。

2. 平成 26 年度人文学類授業アンケートの結果と分析

平成 26 年度は、演習科目や実習科目を含めた全 433 の授業の内の 116 授業が該当した。この内の 99 授業で実施され、実施率は 85%であった。

(1) 出席率

平均 3.91 (最高 5.00, 最低 2.71)

4 件法回答. 5 件法換算では, 皆出席=5/1~2 回欠席=3.67/3~4 回欠席=2.33/5 回以上欠席=1 ポイントの分布になる.

5.00~4.00 ポイント	39 科目
3.99~3 ポイント	57 科目
2.99~2.00 ポイント	3 科目
1.99~1.00 ポイント	0 科目

全授業の平均が 3.91 ポイントであるが, これは 1~2 回欠席の 3.67 を上回るポイントである. 全般に欠席は少ない. 全員皆出席の授業も多く, 最も出席率が低い授業でも, 2.71 ポイントあり, 欠席は 3~4 回を下回っている.

(2) 予習・復習

平均 1.63 ポイント (最高 4.00, 最低 1.00)

5 件法回答. 3 時間以上=5/2 時間以上 3 時間未満=4/1 時間以上 2 時間未満=3/0.5 時間以上 1 時間未満=2/0.5 時間未満 : 1 ポイント

5.00~4.00 ポイント (2 時間以上)	1 科目
3.99~3.00 ポイント (2 時間未満~1 時間以上)	4 科目
2.99~2.00 ポイント (1 時間未満~0.5 時間以上)	18 科目
1.99~1.00 ポイント (0.5 時間未満)	76 科目

平均値が 1.63 ポイントであり前年度の 1.70 ポイントよりもやや下がっている. 76 科目 (77%) の科目で予習・復習に費やされる時間が 30 分未満である.

(3) シラバスの参考度

平均 3.76 (最高 4.25, 最低 2.00)

5 件法回答. 大変参考になった=5 / ある程度参考になった=4 / あまり参考にならなかった=3 / 全く参考にならなかった=2 / 見ていない : 1 ポイント

5.00~4.00 ポイント (大変参考になった~ある程度参考になった)	26 科目
3.99~3.00 ポイント (ある程度参考になった~あまり参考にならなかった)	69 科目
2.99~2.00 ポイント (あまり参考にならなかった~まったく参考にならなかった)	4 科目
1.99~1.00 ポイント (まったく参考にならなかった~見ていない)	0 科目

全体の平均は 3.76 ポイントであり、前年度の 3.70 ポイントよりはやや上がっているが、やはり、「ある程度参考になった～あまり参考にならなかった」の評価の「ある程度参考になった」寄りの評価である。69 科目と一番多くの科目がこの評価群に属していた。ポイント 2.00 の「まったく参考にならなかった」というシラバスについての評価の低い授業もあった。

(4) 授業の理解度

平均 3.64 (最高 5.00, 最低 2.69)

4 件法で回答。5 件法換算では、よく理解できた=5/ほぼ理解できた=3.67/あまり理解できなかった=2.33/全く理解できなかった=1 ポイントの分布になる。

5.00～4.00 ポイント	20 科目
3.99～3.00 ポイント	75 科目
2.99～2.00 ポイント	4 科目
1.99～1.00 ポイント	0 科目

授業の理解度は、全授業の平均で 3.64 ポイントであった。平均値は、「ほぼ理解できた」に相当する。5 ポイントという、全員が最高の評価をした授業もあり、また 5～4 ポイントの高い評価を受けた科目が 99 科目中の 20 (約 20%) ある。3 ポイント以上に、95 科目 (約 96%) が入っている。2.99～2.00 ポイントの評価を受けたのは 4 科目あった。

(5) 授業のスピード

平均 3.10 (最高 3.68, 最低 2.50)

5 件法回答。速すぎた=5/やや速すぎた=4/適切であった=3/やや遅すぎた=2/遅すぎた=1 ポイント

5.00～4.00 ポイント (早すぎた～やや早すぎた)	1 科目
3.99～3 ポイント (やや早すぎた～適切)	86 科目
2.99～2.00 ポイント (適切～やや遅すぎた)	12 科目
1.99～1.00 ポイント (やや遅すぎた～遅すぎた)	0 科目

平均が 3.10 で、授業のスピードについては適切という評価が多い。ポイント帯ごとの授業の分布をみると、少し早目であるという評価を受けているものが多い。

(6) 参考資料の適切度

平均 3.99 (最高 5.00, 最低 3.10)

4 件法で回答。5 件法換算では、十分適切=5/ほぼ適切=3.67/あまり適切でなかった=2.33/全く適切でなかった=1 ポイントの分布になる。

5.00～4.00 ポイント	67 科目
3.99～3.00 ポイント	32 科目
2.99～2.00 ポイント	0 科目
1.99～1.00 ポイント	0 科目

参考資料の適切度については全体の平均が 3.99 ポイントであり、全体的に参考資料は適切であると評価されている。最高評価の 5 ポイントを得ている科目もある。

(7) 授業水準の期待達成度

平均 3.57 (最高 4.33, 最低 3.00)

5 件法回答。期待以上に高かった=5 / やや高かった=4 / 期待通り=3 / やや低かった=2 / 低すぎた=1 ポイント

5.00～4.00 ポイント	13 科目
3.99～3.00 ポイント	86 科目
2.99～2.00 ポイント	0 科目
1.99～1.00 ポイント	0 科目

授業水準の期待達成度は全授業の平均で 3.57 ポイントであった。「期待以上に高かった」科目が 9 科目あり、アンケート対象となった 99 科目の約 9%である。また、86 科目が期待通りを上回る評価を受けていて、すべての科目で学生の期待に十分応える水準の授業を提供している。

(8) 授業への興味

平均 3.89 (最高 5.00, 最低 3.29)

4 件法回答。5 件法換算では、非常に持てた=5 / まあ持てた=3.67 / あまり持てなかった=2.33 / 全く持てなかった=1 ポイントとなる。

5.00～4.00 ポイント	46 科目
3.99～3.00 ポイント	53 科目
2.99～2.00 ポイント	0 科目
1.99～1.00 ポイント	0 科目

授業への興味の評価は全授業の平均で 3.86 ポイントで、「まあ持てた」以上の学生の興味を引くものを提供しているといえる。さらに、4 ポイント以上の高い評価を得ているものが、99 科目中 46 (約 46%) あり、最高評価の 5 ポイントの科目もある。

(9) 知識・視野拡大

平均 4.11 (最高 5.00, 最低 3.55)

4 件法回答. 5 件法換算では, 非常にそう思う=5/まあそう思う=3.67/あまり思わない=2.33/全く思わない=1 ポイントとなる.

5.00~4.00 ポイント	76 科目
3.99~3.00 ポイント	23 科目
2.99~2.00 ポイント	0 科目
1.99~1.00 ポイント	0 科目

知識・視野拡大については, 平均で 4.11 と非常に高い評価を得ている.

ポイント帯への分布においても, 5.00~4.00 ポイントに 76 科目 (76%) が位置し, 残りの 23 科目 (24%) が 3.99~3.00 ポイント帯に位置していて, それ以下の評価はない.

3. まとめと今後の課題

(1) 出席率という点については, 当学類の学生はほとんど, 体調を崩した時以外は欠席しないということが言える. 当学類の授業では, 「出席するのが当たり前」という素晴らしい伝統がずっと維持されている. このことは興味を持てる, 学び甲斐のある授業が提供されていることと関係している. 学生はよく出席し, 学習の成果を感じながら受講しているという概ね良い評価が得られているのである. このことは全国の皆さんにぜひ知っていただきたいことである.

(2) 予習・復習については, 講義系科目のみを対象としたアンケートであり, 多くの予習・復習が求められる演習系科目を含むものではない. そのため, ここに現れている数値は, 当学類の授業全体についての予習・復習時間を正確に反映しているものではない. とはいっても, 1 回の講義の予習・復習に費やされる時間が 30 分未満である, というのは大変に憂慮されるべき結果である.

現在 (27 年度), 本学ではアクティブ・ラーニングを授業に取り入れる活動が推進されていて, 本学類でも様々な取り組みがなされている. この活動を通じて予習・復習の時間が確保されるような様々な工夫がなされることにより, 改善が見られることが期待される.

他方, 学生たちは, 予習・復習ということについて, 初中等教育におけるドリル的な宿題を想定しているために, 講義に関連した読書や, 講義についての学生同士の会話などを, 時間にカウントしていないために低く出ている可能性もある. この点については, 今後調査が必要である.

(3) シラバスの参考度についてである. 前年度のこのアンケートのまとめでは, 「個々の教員が, アンケート結果を見て, シラバスの改良を心がける努力が求められる」と記述されていた. 26 年度には, まったく参考にならなかったという, 2.00 ポイントの評価も授業もあり, 確かに, 改良すべきところは改良すべきなのだろう. 当学類では, シラバスを公開前に, 教員間で相互チェックするシステムが 2015 年度

からスタートしているのです。このような努力により、あまりに評価の低いシラバスは減らしていけると期待される。

他方、当学類では、専門分野ごとに履修すべき科目がある程度決まっているので、シラバスを参考にする必要がない例もあるだろう。シラバスを「授業選択の参考」と位置づけることが見当はずれなのかもしれない。シラバスには、教員から学生への約束(契約)、学んでほしいというメッセージ、などの多様な意味と役割がある。それをこのようなアンケートで一刀両断に整理するには問題があるかもしれない。

(4) 授業の理解度の評価の平均値は、「ほぼ理解できた」にほぼ相当している。他方、4ポイント以上の高い評価を得ているものが25年度に10%、26年度に20%ある。また3ポイント以上の評価を得ているものが、25年度に92%、26年度に96%ある。当学類では、受講者に理解してもらえらる授業を多く提供できているのではないだろうか。

他方、理解度についてのポイントが3~2という低い評価を受けた授業が、25年度に7科目、26年度に4科目あって、このことについては、それぞれの教員にさらに工夫が求められるのだろう。しかし、学問領域には、ある程度の艱難辛苦をへてこそ使い物になるものもあり、そのような分野では、簡単に理解できればOKというわけにはいかないものもあるだろう。そういう性質を備えた分野の講義内容を学習者が簡単に理解できるレベルに合わせる、というわけにはいかないのも事実である。

(5) 授業のスピードについては、大体に適切であるという評価を受けている。早すぎの評価を受けている科目については、アンケート結果を受け取った教員が改善につとめることが期待される。

(6) 参考資料の適切度については非常に高い評価を得ていて、当学類の教員の努力については胸を張れるのではないだろうか。他方、最も評価の低かった授業は25年度に3.12ポイント、26年度に3.10というものがああり、教員サイドでは、全体の評価の分布における自己位置を確認して、さらに良い授業を実現していくことが期待される。

(7) 授業水準の期待達成度の平均は、25年度が3.52ポイント、26年度が3.57ポイント、ほとんどの授業が「期待以上に高かった」から「期待通り」の枠に収まっていて、しかも、「やや高かった」以上のものが多い。授業水準の期待達成度については、とても良い評価を得ていて、当学類の提供する教育の質の高さについては、ぜひ、全国の受験生と納税者の皆さんに分かっていただかなくてはならないことである。

(8) 授業への興味については、基本的に、まあ持てた以上の良い評価を得ている。また、4ポイント以上の良い評価を得ているものが25年度に43%、26年度に46%あり、受講者の興味をひきつける授業が提供できているといえる。

25年度には3ポイント以下の評価を受けたものが1科目だけある。しかし、どの分野でも、学生が即物

的には興味を持てなくても、どうしても学んでおかなければならない科目というものがある。このことを考えると、評価の低い授業があることについて、その数値だけをもって教育の質や教員の資質について議論することには慎重さが求められることでもある。

(9) 知識・視野拡大については、平均で 25 年度に 4.06、26 年度に 4.11 の評価を得ている。また、4 ポイント以上の高い評価を得ているものも、25 年度に 64%、26 年度に 76%あり、当学類では、学生に知識・視野が拡大したと思ってもらえる、良質な授業が提供できているのではないだろうか。

全体としてまとめると、授業あたりの学習時間について、継続的な問題があるものの、金沢大学人文学類では総じて、質の高い授業を提供できている。このことについては、全国受験者と、納税者の皆さんにぜひ分かっていただかなくてはいけないことである。また、問題として抱えている事柄についても解決の具体的な活動がなされている。金沢大学人文学類という学びの場は、その魅力をますます高めていくのだろう、と期待される。